



編集長便り

「アクティブ・ラーニング」 塾でやるならこんなふうに

難関校だけでなく公立高校の入試でも思考力や記述力が問われるようになってきた今、その対策としてアクティブ・ラーニングは有効な学習方法です。前回お話したとおり、そこに塾が取り組む価値は十分にあります。では、どのように授業に取り入れたらよいのでしょうか。

いつやるか

アクティブ・ラーニングに取り組む学校は増えてきましたが、毎回の授業がそうだというわけではありません。基礎知識がなければ議論のしようがありませんから、従来の講義型の授業を数回行ったあと、その総仕上げにアクティブ・ラーニングを行う形が一般的のようです。塾も同様に、通常の授業に加えて、たとえば入試対策の集中講座のような特別講座として設定するのが効果的でしょう。

どんな生徒で取り組むか

まずは最低限の基礎知識が身につけており、さらに応用力や発展的問題を解く力もつけたい生徒で行います。また、学力レベルが拮抗している生徒でグループを作り、リーダー格の生徒が一方向的に議論を引っ張るようなシチュエーションを防ぎます。

学校ではクラス内の学力差が大きくても一緒に授業を行わなければなりません。学習塾なら同じ学力レベルの生徒でグループを作ることができます。その点でも学習塾はアクティブ・ラーニングがうまくいく素地があり、学習効果も期待できるといえます。

個別教室や小学生は

個別教室でもイベント的な授業として生徒を募ればアクティブ・ラーニングが行えます。特に個別教室の生徒は、普段は1人でマイペースに勉強しているためライバルがいる感覚をつかみにくいもの。アクティブ・ラーニングで他者の意見を聞いた

り集団で議論したりすることは、生徒にとって大いに刺激となり、視野が広がる良い機会となるでしょう。

また、小学生がアクティブ・ラーニングに取り組むなら公立中高一貫校の適性検査問題が題材として最適です。受検をしないにもかかわらず、資料を読み取る力・自分の考えを書く力のトレーニングとして行っておけば、のちの高校や大学受験にもきっと役立つでしょう。

アクティブ・ラーニングに使える入試問題

公立高校入試問題例 2015年度 岩手県

市営バスの赤字路線の今後のあり方について、市民の意見を聞くために3つの資料「当該路線の年間利用者数の推移と内訳(棒グラフ)」「当該路線の年間赤字額の推移(棒グラフ)」「当該路線の利用者への利用頻度に関するアンケート結果(円グラフ・帯グラフ)」を用意した。廃止を主張する理由と存続を主張する理由の両方を、それぞれ1つの資料を選び、その資料に基づいて書かせる。

公立高校入試問題例 2016年度 石川県

2つの資料「北海道の主要な港から出荷される農作物と水産物の行先別割合(表)」と「今後の日本の人口予測(折れ線グラフ)」がある。近年、北海道が農産物や水産物の輸出を増やそうと努めている理由として考えられることを、2つの資料を関連づけて書かせる。

公立中高一貫校受検問題例

田畑や線路、役所、学校など主要な施設が地図記号で示された街の地図がある。今あるショッピングセンターを取り壊し、新しい場所に建てる計画があるが、地元の人からは今の場所が良いという意見が出ている。地図を見て、それぞれの場所に建てる利点と欠点を書かせる。

〔公立中高一貫校対策 速習と完成〕より

エデュケーションネットワークでは、公立中高一貫校の対策教材などアクティブ・ラーニングの題材として最適な教材をご用意しています。ぜひ活用ください。

(教材編集長 上野伸二)

編集長の

ここですよ
ポイント

アクティブ・ラーニングのコツ

- 通常の講義型授業に加え、短期の特別講座として実施する。
- 最低限の基礎知識が身につけている生徒を対象に、学力レベルが拮抗する生徒でグループを作る。
- 小学生向けの題材としては、公立中高一貫校の適性検査問題が最適。